

素晴らしいエール交換 になりました。



ご支援・ご協力に感謝

◆六月十四日(木)、w杯ロシア大会全日本チームと代表生徒の交流が実現しました。19名の代表生徒が、全校134名の子どもたち一人一人の思いが込められた「がんばれ日本」の横断幕を携えてキャンプ地カザンを訪ねました。

◆いくつかのメディアから、交流実現までの経緯について尋ねられました。モスクワから800km離れた地に代表生徒を連れてきたことに関心をもったようです。詳しく説明する時間の余裕はありませんでしたが、「モスクワ日本人学校でなければできない教育」を実現するために、大使館や学校運営委員会、日本サッカー協会のご支援を受け、学校職員と保護者が力を合わせて取り組んだ結果だと伝えました。

◆監督、選手、事務局の皆さんの好意で、大会の日程が終了した後に、監督や選手のサイン入りの横断幕が日本人学校に戻ってくるようになりました。素晴らしいエール交換ができたことを嬉しく思います。選手の子どもたちにも伝えていきたいと思っています。

心温まる交流

◆六月十八日(月)、w杯ロシア大会に合わせて来露していた福島県南相馬市の中学生三名と支援ボランティアの皆さんが来校し、全校の子どもたちと交流しました。東日本大震災から七年経った今の思いや南相馬市の現状について話を聞いたり、被災を乗り越えてがんばる姿を描いたビデオを鑑賞したりしました。心温まる交流になりました。

◆東日本大震災の被害地でもある南相馬市の中学生と交流するというところで、事前に教頭が小学部下学年、上学年、中学部に分けて道徳授業を行い、「東日本大震災を受けて「自分なら何ができるか」を考えさせた上で交流に臨ませました。



南相馬の中学生と



道徳授業の様子

(道徳授業後の感想の一部を抜粋して紹介します。)

★教頭先生の話聞いて、防災対策庁舎で最後まで避難放送をし続けた女性の話に感動しました。津波が迫ってくる中、彼女はいつたいていという思いで放送していたのでしよう。僕は、「町の人たちを守りたい」ということと「自分の仕事に誇りをもってやる」ことが彼女を動かしていたと思います。復興に少しでも役に立てるようがんばりたいと思いました。

★一番感動したのは、気仙沼市立階上中学校卒業式での生徒代表の答辞です。「本当は皆で出席するはずだった卒業式なのに、三人被災し亡くなってしまった。残された自分たちの使命は、助け合って復興に導くこと」と言っていたところに感動しました。最後にみんな「自分なら何ができるか」考えました。いろいろな考えが出されたけれど、一番大切だと思ったのは、日本だけでなく、世界へ震災のことを伝えることだと思いました。